

第七回 是川縄文の里 俳句大会 一般の部 入賞作品一覧

第一位	☆縄文の土器に指あと有る秋思	八戸市	佐々木 敦子
第二位	☆縄文の壺ふつくらと春隣	南部町	八木田 順峰
第三位	縄文の朱塗りの腕輪うらけし	青森市	加藤 健一郎
第四位	出土する土器に令和の大西日	埼玉県	坂田 宗大
第五位	天高く土器の漆の色褪せず	埼玉県	木村 隆夫
第六位	☆遠足児かしこき顔で館を出づ	八戸市	三野宮 照枝
第七位	亀鳴くや土偶ぼかんと口を開け	滋賀県	野口成人
第九位	自然薯を土偶のごとく掘りいだす	宮城県	鹿目 勘六
	是川の千古の起伏蒞田道	鶴田町	竹浪 誠也
	縄文の時空を越えて虫時雨	鶴田町	竹浪 誠也
	☆秋の灯や土偶の影がひそひそと	大分県	吉田 紫紅
	冬銀河土偶の記憶呼び起こす	南部町	坂本 秀子
第十三位	☆膝抱きて人待つ土偶海猫渡る	大分県	小野 智輔
	サングラスかけて土偶になる私	岡山県	田曾 真由美
	栃の実の水さらし場や笑い声	埼玉県	中野 弘樹
	あたたかし合掌土偶の手のかたち	愛知県	斉藤 浩美
	草深き遺跡の里や小鳥来る	八戸市	黒田 長子
	木守柿古代の祈り紡ぐ里	八戸市	橋本 善太
	秋冷や黒曜石の尖頭器	和歌山県	中島 紀生
第二十一位	合掌の秋思の深き土偶の眼	八戸市	鈴木 莉花
	栗拾ふしばし縄文人となり	京都府	本谷 眞治郎
	縄文の朱塗りの太刀や初明り	兵庫県	谷本 均
	木の芽風漆の赤き櫛を挿す	福岡県	佐藤 節美
	いのるんの目はまんまるに涼やかに	愛知県	斉藤 浩美
	枯草をはがし太古の遺跡掘る	八戸市	黒田 長子
	縄文の血を承けついで蕨狩	宮城県	鹿目 勘六
	茅葺きの観音堂や水澄めり	八戸市	江口 みよ
	縄文の焚火の跡や虫すだく	八戸市	小野寺 和子
	真ん丸き土偶の口や秋のこゑ	八戸市	小川 澄子
第三十位	縄文の祈り涼しき土偶かな	京都府	本谷 眞治郎
	蝉時雨土偶の胸に響きけり	奈良市	浦城 亮祐
	合掌の土偶へ平和誓ふ夏	東京都	新濃 健
	山眠る悠久抱き土器・土偶	宮城県	荘子 隆
	縄文の里を一望深雪晴	階上町	岩村 多加雄
	牛蛙土偶のごとく半眼す	青森市	麻倉 遥
	何時の世も月夜神秘の土偶かな	八戸市	蛭名 喜光
	団栗や宇宙人めく土偶の眼	東京都	伊勢 史朗
	是川に兄弟の夢叶う夏	愛媛県	新家 益一
	恐らくは未知の遺跡の上の稲架	東京都	花月 大師
	堅穴の屋根に音無く栗の毬	八戸市	高村 ひで子

第七回 是川縄文の里 俳句大会 一般の部 入賞作品一覧

秋の虹縄文館にかかりけり	八戸市	城前	恵子
縄文の父子も見たか冬北斗	岡山県	塩飽	正紀
春風に両手広げし土偶かな	愛知県	長坂	福夫
かわらけの弧高の深さ秋の声	十和田市	比内	順子
色鳥が来る幸せが来るように	東京都	木幡	忠文
土器に匂ふ五穀や里神楽	五戸町	鈴木	志美恵
縄文の風に乗りたる蜻蛉かな	五戸町	和田	宗三
国宝の合掌土偶風光る	広島県	戸田	紀美子
貝塚に潮騒を聞く目借り時	広島県	福岡	宏
勾玉の琅玕匂ふ月今宵	大分県	小野	智輔
縄文の余韻遺跡の星月夜	埼玉県	坂田	宗大
縄文の里を隠して雪が降る	埼玉県	大野	美波
縄文の稲作の地に今年米	兵庫県	谷本	均
縄文の眠り包みて蟬時雨	埼玉県	中野	弘樹
春耕や是川の里よとこしへに	兵庫県	今北	渚
掌を合はす土偶の四囲に暮の秋	千葉県	安田	清一
縄文の風渡りたる夏野原	千葉県	安田	清一
五千点土器裝飾品風光る	広島県	戸田	元紀
野焼き終へ合掌土偶の煤を拭く	八戸市	三浦	敬
芋殻焚く縄文人と会えましたか	東京都	花月	大師
是川や縄文雉子の声高し	八戸市	山地	實
草紅葉縄文人の足跡あり	八戸市	豊川	秀明
いにしへを思ふ堅穴木の実降る	八戸市	佐々木	敦子
秋の田の中に佇む縄文館	愛知県	幅	茂
揚雲雀空の青さや縄文館	八戸市	嶋守	登
ちろ虫土偶は遠き夢を見む	八戸市	三野宮	照枝
竹の子や縄文の土盛上ぐる	五戸町	鈴木	志美恵
陶土搗くからうすの音翳雲	八戸市	小野寺	和子
土器を焼く野辺に満月影ふたつ	南部町	坂本	秀子
土器土偶炎の記憶彼岸花	八戸市	赤坂	昇吾
風花や縄文館は里の顔	八戸市	石垣	浩造
土器あまた出でし是川豊の秋	八戸市	石垣	浩造
発掘の麦わら帽子に秋茜	福島県	鈴木	直樹
蛸に送られ発掘仕舞いけり	福島県	鈴木	直樹
柿たわわ柿の里とはたしかなり	八戸市	小川	澄子
天高し土偶の親子手をつなぎ	八戸市	鈴木	莉花
初蝶に縄文の里目覚めけり	広島県	福岡	宏

☆：天位（色紙を贈呈）

一般の部 応募数 233句